

## 「安中・夢計画」

### 安中地区まちづくり推進協議会

安中三角地帯は、平成2年からの雲仙普賢岳噴火の際に、度重なる土石流による被害を被り、一時は居住不可能な状態となっていました。後に推進協議会の中心メンバーとなる有志が結束し「住民が一丸となって復興に向けて動けば、行政は必ずそれに答えてくれるはず」と、高上げに慎重な態度であった住民をまとめ、復興事業の残土処分地として安中三角地帯を活用することで、高上げ事業を実現しました。

「安中三角地帯高上推進協議会」は、地域住民自らの行動により高上げ事業を実現するために平成8年度に発足し、平成11年には、本格的にまちづくりに取り組むために「安中地区まちづくり推進協議会」として組織が再編されました。

その後は、普賢岳の平成噴火災害時に土石流に呑み込まれた「われん川」や「安中梅林」の再生

及びそれらの維持・管理を行うほか、地元の高校生の卒業記念植樹等にも関わり、砂防指定地の利活用に積極的に取り組んでいます。また、火山地域の市民団体相互支援ネットワークの一員として、有珠山や三宅島、霧島山(新燃岳)といった火山災害で被災した地域との交流を毎年継続しています。被災地住民の支援の一環として、安中三角地帯高上げ事業を実現した際に、行政を動かすために、あえて住民に厳しい態度をとらなければならなかった体験談などを、被災地地域に行きつて伝える活動も行っています。近年では、「安中防災塾」を行政と協働で開催するなど、次世代の防災リーダーの育成に積極的に取り組むなど、「防災」をテーマにした地域づくりに活動の幅を広げています。



度重なる土石流の被害にあった安中三角地帯



地域住民による植樹



高上げの前後、第一号の棟上げ式



多くの住民が関わった「われん川」の再生

- ◆所在地  
長崎県島原市安中地内
- ◆活動内容  
導流堤の植栽維持管理、火山災害被災地市民ネットワーク活動（被災地支援）  
安中防災塾など防災教育の実施
- ◆活動主体  
安中地区まちづくり推進協議会  
※功労者名：加藤 正時（安中地区町内会連絡協議会、当時の町内会長）
- ◆対象となる社会資本  
雲仙普賢岳復興事業、われん川及び安中三角地帯

